

令和3年度 第2回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会 質問・意見・要望事項について

1 除雪について

今年は、例年よりも積雪が多かったが、交通量が多い道路の中央分離帯の半分が雪山に覆われ、車1台分の走行スペースしかない状況だった。そこを緊急車両が走行するとしたら不安を覚える。もう少し除雪の方法を考えてほしい。

回答

本市の除雪は、令和2年度に全戸配布しました「みんなで除雪」パンフレットなどで御説明させていただいておりますが、かき分け除雪を採用しており、ご自宅の前の路肩や歩道などに雪が残ってしましますが、極力皆様の御不便とならないよう、除雪機械で交差点や中央分離帯、公園の周囲などに堆雪している状況を御理解願います。

御指摘の、堆積箇所につきましては、除雪担当者による「ブロック会議」において指導しており、道路パトロールなどにより現地の把握に努め、雪山が高くなり見通しが悪いや、車道幅員が狭く通行に支障のある場合には、高さを削り落としたり、拡幅除雪などを行うよう速やかな対応に心掛けております。

お気づきの点がございましたら、道路管理事務所（73-5000）へ御連絡くださいますようお願いいたします。

2 「苫小牧市ながら見守りタイ！」について

- ① 「苫小牧市ながら見守りタイ！」を街中で見かけないが、現在の参加者数は何人か。
- ② 再度募集してはどうか。

回答

① 「苫小牧市ながら見守りタイ！」は、日常生活の中で防犯の観点をもって子ども等を見守る新しい活動として、昨年8月より募集を開始しております。

参加者数は、現在まで当初目標の100名を大幅に上回る230名となっております。

② 参加者の募集につきましては現在も実施しており、今月15日開催の「防犯リーダー研修会」においても、受付ブースを設けて参加の呼びかけを実施いたしました。

新年度につきましても、ウォーキング愛好者に参加を呼び掛けるなど、さらなる参加者の拡大を図り、地域防犯活動の裾野拡大に努めてまいります。

3 不審者情報発信内容等について

メール配信や小中学校等で共有している「不審者情報」について、「人」ではなく「場所」視点での報告と周知が必要と思える。

情報を見ると「黒っぽい服、茶色の帽子、40代ぐらい、背低い」など、被害発生から数日後に共有される情報であるならほとんど意味がない。犯罪企図者（不審者）をいつもその場に現れる「呪縛霊」か「おばけ」のように捉えて公的な情報を発信するのでは、逆に次の犯罪被害防止に繋がらない。

子供たちから寄せられる不審者情報の多くは、「かもしれない」、「怖い感じがした」というものだと思うが、実はそれが非常に大切で、それをどのような場所（状況）でそう思ったかというところの共有こそが、犯罪被害未然防止つまり「効果のある防犯」となる。

被害に遭った子ども及び、被害に遭いそうになった子どもに対して被害状況を問うときに、大人はどんな人を「不審者と思ったか」よりも、どこで、どんな時間帯に、どんな天候時に、という周囲環境などに着目した情報を引き出すよう努めることが、これから先の犯罪被害未然防止に肝要であり、また被害者のトラウマ等にならない効果もあるといえます。

回 答

苫小牧市ホームページにおいて発信しております不審者情報につきましては、健康こども部青少年課、警察署から提供いただいた情報を掲載しております。

周囲環境などに着目した情報が犯罪被害未然防止等にとっても有効な手段であるとの委員の御意見について、関係機関にお伝えさせていただくとともに、発信情報の内容について、協議してまいりたいと考えております。